「先進医療」

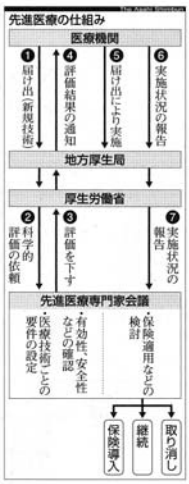
規制緩和で患

る一酒原出切脳梗を用いた手
宮膜筋症核出術」をしている。金属製のリングが先端に付いた器具を使い、電気を通し、病巣部分を切除する。

01年から年数例のペースで手術してきたが、全額患者負担の自由診療扱い。患者負担は約50万円。西田院長は20例を超す手術を安全に実施した段階で、日本産科婦人科学会を通じて保険診療で認めてくれるよう国に働きかけようとしたが、学会担当者から「新しい術式を認めてもらうには10年かかる」と言われた。

その約半年後、厚生労働省が新しい医療技術に関する規制緩和をしたことを知る。保険が認められる前の新しい治療をするときの診察や検査費などを健康保険から支払う制度は84年に「高度先進医療」という名称で始まった。ただ、条件が厳しく、対象となる医療機関は04年11月の時点で125施設に限られ、多くは大学病院だった。しかも、各医療技術ごとに個別に医療機関を審査し、承認に1年程度かかることもあった。

先進医療では、医療機関が新規の医療技術を厚労省に届け出たら、同省が施設の要件を設定。それ以降は、要件を満たす施設に届け出ることで、保険診療と併用できる。



初の承認と異例の認定にかかる時間も「原則3カ月以内」に短縮。実施施設は毎年、実績などを同省に報告する。「先進医療」には高度先進医療の対象技術も統合された。

現在、先進医療の対象は107種類で実施機関はのべ1025施設。高度先進医療時

東大病院放射線科の白石憲史郎医師は「現在の態勢ではIMRTを受けられる人を年間50人から70人程度に増やすのがやっと。高度な機器に対応できる専門医や精度管理の専門家が足りない」という。

東大駒場では、南立原がん（38回照射）で約130万円を負担してもらっていたが、保険診療になった昨年4月以降は同じ治療が3割負担の人で約37万円で済むようになり、患者は激増。リスクの低い患者は半年ほど待ってもらうこともある。

【医療】

どうしました

72歳の男性。毎朝の散歩や、軽登山を楽しんでいましたが、昨年の6月ごろから左のかかとが痛み始めました。診察を受けたところ、「足底腱膜炎」と診断されました。湿布をはっていますが、11月たった現在も痛みはとれません。湿布以外に治療方法はありませんか。（東京都・K）

Q 原因は。

A 足のアーチを支える足底腱膜に負担がかかり、足底痛をきたす疾患です。足のアーチを弓に例えると、足底腱膜が弦の役割を果たしています。過度のランニングや歩きすぎ、立ち仕事などでアーチに負担がかかり、腱が引き伸ばされて小さな断裂を起こします。

中高年の方に比較的多く見られます。老化により腱の弾力が失われているからです。底の薄い平らな靴や、かかとのすり減った靴を履いていても炎症を起こします。

足底腱膜炎

南出（みなみで） 正順（まさゆき）さん
稲毛整形外科院長
＝千葉市稲毛区

Q 朝起きて足をついた時に激痛を感じます。

A 1日歩いて生じた足底腱膜の微細な損傷部が、夜寝ている間、固まって治ろうとします。朝、固まった損傷部分に体重をかけることで、再び引き伸ばされて激痛となります。顔を洗いに行く程度の時間で弱い部分が再び壊れますが、そのあとは痛みが軽くなります。

Q 治療法は。

A 足のアーチを支えるインソール（中敷き）を靴に入れたり、つま先・土ちの運動などでふくらはぎの筋肉をつけたりして、かかとの衝撃を和らげることが大切です。自然治癒で治る方も多いですが、半年以上かかる難治例が患者の約10%に見られます。

Q 湿布以外にストレッチも試しています。

A 足の指をそらして足の裏を伸ばす方法も有効ですが、足底筋を鍛えるタオルギャザーも試してみてください。広げたタオルを、両足の指を動かしてたぐり寄せる運動です。1日5セットぐらい。もの足りない人は、タオルの端にペットボトルを置いてみてください。

Q スポーツ選手がよく試す治療法はありますか。

A 超音波治療があります。バランスボードやエアクッションの上に立ち、後脛骨筋などの足首の筋肉を鍛えて柔軟性を高める方法もあります。

「どうしました」の質問には連絡先を明記してください。回答は紙面に限らせて頂きます。eメール kenko@asahi.com 〒104・8011 朝日新聞医療グループ
ファクス 東京03・3524・0533 大阪06・6201・0249